

日本数学会の国際交流と アジア数学連合結成へ向けた動き

舟木直久

日本数学会理事長 (東大数理)

平成 26 年 5 月 27 日¹

¹文部科学省数学イノベーション委員会

アジア数学連合 (The Mathematical Union of Asia) 結成へ向けた動き (最近 10 年間のアジア近隣諸国との交流)

- 2004 年：大韓数学会との協定
(代表団相互訪問+招待講演の開始)
- 2006 年：Global KMS Day (大韓数学会 60 周年)
MUA 結成の提案 (Asian Mathematical Forum 開催)
- 2007 年：馬志明教授 (中国科学院) “Some Aspects of Mathematical Community in China” (数学通信記事)
- 2008 年：台湾数学会との協定
(代表団相互訪問+招待講演の開始)
- 2009 年：KMS-AMS 日本数学会の取り組みについて講演
- 2010 年：ICM を機に MUA についての議論
- 2012 年：中国「数学書林」発行
(日本の「数学」の一部翻訳)

- 2012年：MSJ-KMS Joint Meeting, 九州大学



宮岡洋一前理事長

- 2013年：AMC (Forum), 釜山宣言



- ICM2014 までに MUA の規約決定
- ICM2014 で MUA 設立宣言

- 2013年：台湾数学会訪問



招待講演 小磯深幸理事

- 2014年5月：MUA 立ち上げ委員会メンバー決定
(日中韓各1名、東南アジア数学会2名、インド1名)
- 2014年8月13日～21日：国際数学者会議 (ICM Seoul)
 - 数学研究交流 日本フォーラム
日時：2014年8月19日(火) 19:00-21:00
場所：ソウル・コンベンションセンター (ICMの会場)
(COEX Grand Ballroom 104)
主催：日本数学会
後援：駐大韓民国日本大使館、日本学術会議(予定)
助成：数理科学振興会、東京倶楽部(申請中)
 - 日本数学会のブース開設
- (個人ベースでの) ベトナム、フィリピン、カンボジアとの交流

MUA の目指す方向

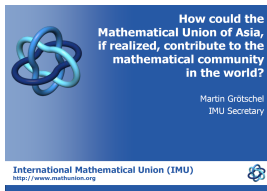
- 研究交流、相互訪問の促進
- アジア数学会議 (Asian Congress of Mathematicians) の開催 (4年に1回)
- 賞、特に若手の賞
- 若手研究者支援、ポスドクの交換
- 数学雑誌の発刊
- 数学の重要性を各国の行政や国民に訴える方策の共有

問題点

- 地域格差 (数学のレベル、目指す方向性 : 研究/教育の比重、数学の応用、歴史的背景)
- 範囲 (Iran, Israel, Australia,)
- 意見の相違

IMU(国際数学連合) からの提言

- できることから始める
- IMU, EMS を見習う (設立過程, 組織作り, 規約,)
- 数学の弱い国をサポート
- 加盟単位を国にしない
- 各国トップ研究所間のネットワーク作り



ヨーロッパ数学会から学ぶ点

- 設立には強力なリーダーシップが必要, Atiyah, Hirzebruch
- それでも 10 年以上かかる (1978 Helsinki ICM~1990 年設立)
- Congress (1992 年から 4 年に 1 回)
- ヨーロッパ数学会賞 (各回 10 人, 35 才未満) の成功
- Felix Klein 賞 (若手, 産業数学)
- 出版物 (Book, e-Book, Journal: EMS Publishing House)
- Societies の集まり, 研究所・個人会員もある
- Summer School, 研究集会, Lectures

日本数学会主催国際研究集会 (27 回/21 年)

- MSJ-SI (Seasonal Institute, 2008-)
MSJ-IRI (International Research Institute, 1993-2006)
MSJ-RW (Regional Workshop, 1996-1998)
- 2013 年第 6 回 MSJ-SI “Development of Moduli Theory”
外国人参加者: Korea 15, Taiwan 5, India 2; USA 9, UK 9, Germany 2, Italy 2, France 1, Poland 1 (数学会が韓国人 3 名、台湾人 5 名招待) 計 46 名
- 2012 年第 5 回 MSJ-SI “Schubert Calculus”
外国人参加者: Korea 18, Taiwan 3, China 2, India 1; USA 34, Canada 6, Germany 6, Russia 4, Australia 2, France 1, Poland 1 計 78 名

高木レクチャー (2006 年開始、13 回開催)

毎回 2~5 名の世界的な数学者に講師を依頼